

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、楽しく、一緒に」を理念に家庭的な環境の中で利用者が安心して暮らせるよう、サービス向上に全員で取り組んでいる。	○	現在の理念に加えて、利用者が地域の中でその人らしく安心して暮らせるよう、地域との関係強化を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はミーティングや運営会議等で理念について確認し合い、理念の実践に向けて全員で取り組んでいる。	○	毎月開催される運営会議で、新しく始まった地域密着型サービスの役割について全員で話し合い、理解を深めてほしい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる展示会や祭りには積極的に参加して地元の人々と交流を深めている。また、地域住民を招き関連施設と一緒に文化祭や敬老会を開催している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を前向きにとらえ、具体的に改善しようとする姿勢がある。前回の外部評価について、介護計画の見直しや成年後見制度の周知等評価を生かした改善が実施されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年5回開催し、ホーム内の現状報告や外部評価の結果について話し合い、また、研修計画等について活発な意見交換が行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者には管理者がホームの実情や情報を定期的に報告している。また、町主催で町内4事業所が参加して、定期的に研修会を実施する等連携を深めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に暮らしぶりや健康状態をきめ細かに伝え、預かっている金銭については金銭出納簿を明示し確認してもらっている。また、ホーム便りを毎月発行して近況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が定期的で開催されており、運営推進会議に家族の代表が出席し、家族の意見が反映できる体制ができている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体で適材適所の異動を行っているが、利用者のダメージを防ぐために必要最小限の異動に抑える努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は人材育成に積極的で、年間研修計画を立て、法人内外の研修に数多く参加させている。その内容は復命書で全員に周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催で町内4事業所と定期的に研修会を行い、情報交換も行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族からホームを見学してもらい雰囲気を覚えてもらったり、職員が入居前に利用者や家族に会いに行く等徐々に馴染みながら安心してサービスが受けられるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員の関係だけではなく、「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念のもと共に学び、支えあう関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴や、本人、家族との話し合いの中から情報を収集し、利用者の暮らし方の希望や意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や希望を十分取り入れ、計画作成担当者を中心に全員がアイデアを出し、利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の定期的な介護計画の見直しを行っている。また、状況の変化に応じて随時見直しも実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や通所介護の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に1回定期的に掛かりつけ医による受診を行っている。受診時には掛かりつけ医に情報提供書で状態を報告する等関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の終末期のあり方については、家族や母体病院並びに掛かりつけ医と繰り返し話し合い、看取りに関する指針ができている。	○	看取りに関する指針や同意書が整備され、体制はできているが、職員の理解がまだ十分とは言えないので、運営会議等での検討を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の尊厳と権利を守るために、日常的に全職員が確認し合い、プライバシーの確保に事業所全体で取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の状態や思いに配慮しながら、自分のペースで納得のいく暮らしができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に育てた野菜を食材にして調理し、楽しみながら食事をしている。好みや希望もできるだけ取り入れている。	○	職員は弁当を持参して利用者と食事をしているが、食卓を囲んで同じものを一緒に食べると、さらに親近感が増し充実することが期待されると思われるので検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にその日の健康状態を確認し、できるだけ希望に合わせて入浴ができるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備の手伝いや後片づけをお願いしたり、塗り絵を楽しんだり、利用者一人ひとりが経験や知識を発揮できる場面作りの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力を得て散歩や買物、時にはドライブ、外食等に出かけたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊をする利用者がいて、安全確保のため家族の了解を得て日中玄関に鍵をかけている。	○	見守りの工夫や地域、家族等の協力を得て、何とか鍵をかけないケアができないか検討してほしい。

宮崎市高鍋町 グループホームメゾン・なでしこ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、定期的に避難訓練を行っている。また、母体病院や地域との協力体制もできている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を職員は把握しており、希望や嗜好にも配慮した献立となっている。	○	利用者の希望や嗜好に配慮した栄養バランスの良い献立となっているが、確認のため一度、母体の管理栄養士にチェックしてもらったらどうだろうか。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は畳やソファ、本棚等が置かれ、家庭的で落ち着きのある雰囲気作りに配慮がされている。ただトイレに車いすごとに入ることが困難な状態にあり、また、浴槽も中が深く若干利用しにくい面がある。	○	利用者の身体状況が開設当時と大きく変化しており、トイレと浴槽の改善を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋服かけや自宅で使用していた毛布、枕、思い出の写真等を持ち込んでいる利用者もいるが、全体的に使い慣れたなじみの物の持ち込みが少ない。	○	利用者が安心して居心地良く暮らすために、家族と相談しながら使い慣れたなじみのものを少しでも増やす工夫を期待したい。

※  は、重点項目。